

プレジオツアー概要 10月3日(水)～10月5日(金)

洞爺湖有珠山

減災文化と火山の恵み ～秋の有珠山満喫ツアー～

参加者数
19名

行程▶10/4(木) 西山山麓火口散策路(有珠山2000年噴火・ジオサイトの保全)→豊浦町インディアン水車公園(鮭の生態・ジオの恵み紹介)→天然豊浦温泉しおさい(昼食)→文政火砕流の碑(山体崩壊・アイヌ文化)→道の駅だて歴史の杜(防災施設紹介)→有珠山ロープウェイ(1977噴火・昭和新山・観光業とのつながり)→1977年火山遺構公園(1977年噴火・避難誘導事例・ジオサイト保全)→2000年噴火避難所体験の講話(教育活動)→終了

10/5(金) 洞爺湖有珠山ジオパーク→道央自動車道経由(有珠山・倶多楽火山・樽前火山・北海道胆振東部地震・泥火山)→様似町

ガイド/講話▶江川 理恵、後藤 信二、荒町 美紀(洞爺湖有珠火山マイスター)

横山 光(洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、北翔大学准教授)

内容と結果▶洞爺湖有珠山ジオパークのテーマである「活火山との共生」と、ジオパークが取り組むべき減災活動について、散策路やジオサイトの見学を通し、問いかけを行った。洞爺湖有珠火山マイスターがガイドを担当し、普段の減災教育活動の一端を伝えた。地質災害に関わる地域からの参加が多く、災害遺構の保全方法や減災教育に関する具体的な意見交換がなされた。参加者からは火山マイスターの活動を評価する声と、移動中に車窓からの写真を撮影したかった、露頭や石に触れる時間が欲しかったという要望があった。



白 滝

KON-SAI(昆(虫)祭・根菜)ジオツアー in 丸瀬布

参加者数
11名

ガイド名▶矢木 優(えんがあるジオ倶楽部)

佐藤正美(丸瀬布昆虫同好会)

1日目▶白滝ジオパーク交流センター⇒ジャガイモ選別体験⇒ホテルサンシャイン

2日目▶インカルシぶら歩き⇒白滝ジオパーク交流センター⇒黒曜石原産地直下の河川堆積物⇒埋蔵文化財センター(石器作り体験&展示見学)⇒大平高原⇒作った石器でBBQ⇒山彦の滝⇒いこいの森の風穴と植生⇒森林鉄道雨宮21号乗車体験⇒丸瀬布昆虫生態館

3日目▶帯広百年記念館

内容と結果▶催行中止となった黒曜石原産地ツアーに代り、河川での黒曜石礫の観察、石器作り体験、石器の使用体験を組み込んだ。参加者には満足いただけた一方で、プログラム過多となり時間に余裕がなかった。畑から掘りあげられるジャガイモと岩石をトラクター上で選別する体験が土地の成り立ちと大地の恵みが分かり良かったとの意見が多かった。その他、「人が暖かい」のほか「ガイドは参加者に考えさせる工夫を」との意見があった。



さあ行こう！一億年時間旅行へ！

参加者数
29名

行程▶10月4日 9:15 新千歳空港集合 → 10:30 岩見沢駅集合 → 11:30 三笠市立博物館見学 → 12:20 昼食 → 13:00 ジオツアー（野外博物館・旧奔別炭鉱）→ 15:40 講演 → 16:45 美祢市立豊田前中学校生徒発表 → 17:00 意見交換会 → 19:00 懇親会

10月5日 8:20 ホテル出発 → 8:50 ジオツアー（桂沢ダム・原石山）→ 10:45 高校生レストラン見学 → 11:10 山崎ワイナリー見学 → 12:20意見交換会 → 13:20 昼食 → 13:50 出発 → 17:30 様似町到着

ガイド▶下村 圭・上口 壮太・相場 大佑（三笠ジオパーク）／山崎 太地（山崎ワイナリー）

内容と結果▶教育分科会と連動した取り組みとして、ジオパークにおける「教育」には様々な切り口があることを多様な参加者との対話や意見交換を通じて気づき、ジオパーク活動における「教育」について広い視野から考え、行動に結び付けることができるようになることを目的に、教育的取組み＋ツアーの形式で実施した。

結果として、「教育」は多様で多彩な取組みであり地域ごとでも異なる。そのため、様々な地域の取組み事例を知り、自地域との比較など行い、情報を地域内で共有を図り創意工夫し続けることが重要である。また、地域内外における様々な利害関係者との連携強化や横断的な取組みの重要性について改めて認識することができた。

美祢市立豊田前中学校発表の様子



文化体験(北海盆踊り)の様子



幾春別かるたの様子

ジオツアーの様子



とかち鹿追

プロガイドと歩く「風穴の森」トレッキングツアー

参加者数
10名

ガイド▶松本宏樹（然別湖ネイチャーセンター）／阿久澤小夜里（ボレアルフォレスト）

行程▶10月3日(水)～10月5日(金) 2泊3日

10月3日 帯広空港・駅集合、ビジターセンター紹介、交流会

10月4日 リバーウォッチング、風穴トレッキング、ミーティング、ナイトウォッチング

10月5日 長芋掘り体験、様似町へ移動

内容▶とかち鹿追ジオパークの特長である、火山と寒冷な気候がつくった風穴地帯や然別湖（しかりべつこ）を30年近い経験を持つプロガイドと一緒に、楽しみながら安全管理について学ぶツアー。リバーウォッチングでは、世界でここだけに生息するミヤバイワナの観察を通じて、川の渡渉法やお客様への声掛け・目配りについて、風穴トレッキングでは、風穴やナキウサギの観察を通じてガイドの立ち位置や安全ラインの見極めについて、鹿追のプロガイドの経験を紹介した。

結果▶参加者は定員を割る10名となったが、晴天にも恵まれ、少人数ゆえに濃い時間を共有することができた。今回は、実際の現場を共有した上で、安全管理について協議することができ、具体的かつ現場に即した深い議論ができた。



ポストジオツアー概要 10月7日(日)～10月8日(月)



大会2日目終了後から大会3日目にかけて、アポイ岳世界ユネスコジオパークとその周辺地域をまわるポストツアー（7コース）を開催した。アポイ岳エリア内5コース（アポイ登山、幌満峡、歴史、鮭漁、アイヌ文化コース）、浦河町～新ひだか町方面1コース（馬産地コース）、えりも町～十勝方面1コースである。アポイ登山以外はバスツアーである。参加者数は160名であった。

「アポイ岳登山」、「歴史」、「鮭漁」をテーマとしたコースは、これまでアポイ岳世界ユネスコ世界ジオパークで行ってきた定番コースであり、普段の活動やこれまで催行したコースをアレンジした形で企画した。「幌満峡」コースでは普段行っていることを専門家向けツアーとしてアレンジした。「アイヌ文化」コースは、普段行っていることをツアーとしてアレンジした。「馬産地日高」および「えりも町と日高山脈」コースは、様似町外コースであり、新たな試みであった。

準備については、大会前年10月からガイドとともに検討部会を行った。近隣の高校生たちからもカフェ形式でアイデアを出してもらった。当日まで勉強会、打ち合わせ、現地視察、リハーサルを何度も行った。ガイドとともにフリップや小道具などの説明用道具作成、岩石標本作成、参加者配布地図や資料作成、台本（説明骨子）作成を行った。大会終了後の11月にガイドとスタッフ30名で報告会を行った。提供したい情報、見てもらいたい場所が多過ぎ、時間内では収まりきれないことが課題としてあげられたが、多くの町民がふるさとの魅力を自ら考え、来訪者へ伝えることができた事は今後のジオパーク運営をするうえで、大きな財産となった。

以下、各コースごとに参加者アンケートおよび、大会終了後の報告会から出てきたことをまとめる。アンケートは128名から回収し、回収率は8割であった。アンケートから、ツアー全体の満足度については、「満足」60%以上、「満足とやや満足の合計」93%以上であった。

1 かんらん岩と高山植物の共演！アポイ岳登山

参加者	29名	
1日目	ビジターセンター➡アポイ岳の花➡スライドショー➡アポイ山荘	
2日目	アポイ岳➡アポイ山荘➡新千歳空港	
ガイド	信太 富夫／則次 繁／谷村 利幸／中村 秀則／田中 正人	
アンケートと報告会から	理解が深まったことは「どの項目も」であった。印象的だったことは「登山（26%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「ガイドの説明（67%）、アポイ山荘（63%）、アポイ岳登山（63%）」である。参加者全員が登頂し、参加者ニーズに合わせたガイドの説明が好評であった。課題は時間制約である。	



2

地球内部を覗いてみよう！Ho浪漫（幌満）峡

参加者	30名	
1日目	ビジターセンター→アポイ岳の花スライドショー→アポイ山荘	
2日目	アポイ山荘→ゴヨウマツ記念碑→稲荷神社前→幌満ダム →幌満コミセン・ジオラボ→角閃岩の褶曲→アポイ山荘 →新千歳空港	
ガイド	島田 哲也／阿部 雄一／磯野 清美	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「かんらん岩の特徴（36%）」。印象的だったことは「かんらん岩（31%）」。 各設問で満足をつけた割合が高いのは「幌満自治会との交流（92%）、幌満川の岩石観察（67%）」 である。「時間配分」への評価は高く、課題は「雨天時の対応」。石切りや石磨き等の体験もした かったという要望があった。	



3

東蝦夷地を歴史探訪！ブラリまち歩き

参加者	27名
1日目	中央公民館➡AERU
2日目	AERU➡親子岩➡エンルム岬➡様似郷土館➡等澍院➡中央公民館➡幌満コミセン・ジオラボ ➡アポイ山荘➡新千歳空港
ガイド	水野 洋一／小林 弥生
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「かんらん岩の特徴（30%）、様似の歴史と地形地質の関係（29%）」であつた。印象的だつたことは「等澍院見学（20%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「幌満自治会との交流（85%）、ガイドの説明（84%）」である。「幌満自治会の歓迎」の評価が高く、課題は「雨天時の対応および時間超過」である。



4

秋サケ三昧！漁師と浜のかあさんの暮らし体験

参加者	10名	
1日目	ビジターセンター→アポイ岳の花スライドショー→プラザみすず	
2日目	プラザみすず→乗船→港町生活館→丸富水産→西町生活館 →エンルム岬→新千歳空港	
ガイド	川崎 正春／佐々木 敏	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「アポイ岳のなりたち（37%）」であった。印象的だったことは「鮭さばき体験（19%）、地元の方とのふれあい（19%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「浜のかあさん料理（90%）、鮭さばき&いくらしょうゆ漬け体験（90%）」である。良かったことは「浜のかあさんとの交流・おもてなし・体験（乗船、鮭さばき、いくらしょうゆ漬け）、船が出たこと」。小道具を用いた説明はやりやすかった。課題は宿泊施設である。	



5

アイヌ語・アイヌ伝説からジオを学ぶ

参加者	27名	
1日目	中央公民館→AERU	
2日目	AERU→親子岩→観音山→エンルム岬→冬島の穴岩→チセ →岡田生活館→新千歳空港	
ガイド	大野 徹人／鎌田 康代	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「アイヌ語地名と地形地質の関係 (35%)、アイヌ文化 (34%)」であった。印象的だったことは「アイヌ文化体験 (48%)」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「昼食アイヌ料理 (75%)、アイヌ文化体験 (69%)」である。和踊り、アイヌ衣装の着付け体験、不順な天候なりに様似を見てもらえたこと、事前に準備が整えられていた点が良かったこととして上げられた一方で、詰め込みすぎの行程、バス運転手との連携が反省点であった。	



6

馬産地ひだかのルーツを探る！日高優駿街道

参加者	24名	
1日目	中央公民館→AERU	
2日目	AERU→JRA日高育成牧場→馬事資料館→三石道の駅 →真歌の丘→あま屋→龍雲閣→新千歳空港	
ガイド	武内 秀仁／井坂 美保子／加藤 みゆき	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「馬産地日高のルーツと地形地質の関係（56%）」であった。印象的だったことは「馬産地日高のルーツがわかった（24%）、JRA（20%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「ガイドの説明（73%）、JRA（70%）」である。参加者のこのコースの選択理由はさまざまであったが、良かったことは「ジオと馬の関係がわかったこと、おもてなし（お土産、ビンゴ、クイズ景品、蹄鉄）、ジオツアーらしいガイドだったと評価があったこと」。課題は詰め込みすぎ、集合写真が撮れなかったことである。	



7

どんだけ～強風体験！えりも岬とんがりロード

参加者	13名	
1日目	ビジターセンター➡田中旅館	
2日目	田中旅館➡えりも町郷土資料館➡歌別川➡えりも岬➡守人 ➡ルーラン岩礁➡大樹町道の駅➡とかち帯広空港	
ガイド	中岡 俊子／平山 繁雄	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「えりも岬のなりたち（36%）、日高山脈のなりたち（36%）」であった。印象的だったことは「えりも岬（17%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「えりも岬（92%）、昼食会場の「 ^{まぶりっ} 守人」（75%）」である。時間配分、少人数での交流会、おみやげなどのおもてなしが喜ばれた。課題は説明しきれなかったこと。	

